

福島県内の震災関連施設について

施設名(所在地)	施設概要	延床面積	集客人数	ターゲット及び利用者層	参考となる点
いわき震災 伝承みらい館 (福島県いわき市)	震災の「記憶の記録化」「記録の記憶化」をコンセプトに、震災の記憶や教訓を、記録映像や写真、実物資料と市民の生の声や思い、経験談で展示・紹介。「展示」と「語り部」(体験談)が融合した展示解説を行う。	延床面積 546 m ² 展示面積 225 m ²	約1万人 令和2年 5月30日～10月10日 (約4か月)	ターゲット:小・中・高校生 来館者層:小・中・高校生、大学生。教育旅行(修学旅行)及び震災視察。	【展示】「語り部」の体験談を積極的に活用することで震災の教訓を実感・共感することにつなげている 【展示】情報の内容や更新頻度に合わせた展示更新 (情報更新は職員による対応を基本に機能的に難しいものは製作会社とする等) 【地域】同種の施設と連携して広報力を強化(「震災伝承ネットワーク協議会」における震災伝承施設に登録)
環境再生プラザ (福島県福島市)	福島の環境再生に関する情報提供と県内での移動展示、地域コミュニケーションを展開する施設。福島の環境回復の歩みや放射線の基礎知識、中間貯蔵事業などを映像やジオラマ、実物資料などで紹介。地域を紹介する企画展も実施。	延床面積 568 m ² 展示面積 332 m ²	2,000～3,000人 ／年程度 (令和元年度)	ターゲット:特に無し 来館者層:社会人、県外の団体が中心。 県内:県外=3:7。	【展示】環境再生事業の進捗に対応した展示更新(月一回更新される情報の開示、日々アップデートが必要な情報を手書きで対応、事業が終了したものは展示を終了するなど) 【展示】理解・実感につながる実体験を重視した展示を展開(測定体験、ジオラマを組み合わせた仕組み模型) 【プログラム】原子力学会など専門家等との連携により体験活動を施設外にて実施(専門家はボランティアとして協力) 【広報・集客】施設外での体験活動を撮影して広報用にネット発信(現地視察企画「ふくしまみちさがし」の動画映像配信を計画)
東京電力廃炉資料館 (福島県双葉郡富岡町)	原子力事故の事実と廃炉事業の現状等を確認できる施設。事故の記憶と記録・反省と教訓、廃炉現場の姿を再現映像や資料、グラフィックで紹介。復興連携ギャラリー、原子力情報コーナー、放射線情報・コミュニケーションスペースも設置。	延床面積 2,500 m ² 展示面積 1,900 m ²	5万人／年 (開館から1年時点) ※海外からは 1,400人が来館	ターゲット:発電所周辺地域住民、福島県民及び国内外の人々(展示計画上の想定ターゲット:高校生以上) 来館者層:大人、会社員	【展示】事業の進捗に対応したタイムリーな企画展や展示更新を実施(処理水についてのコーナーを追加など) 【展示】情報更新を視野に入れた展示手法の設定(映像展示は映像を差し替えれば更新できるので、映像更新を想定した展示設計)
東日本大震災・ 原子力災害伝承館 (福島県双葉郡双葉町)	福島が経験した世界初の複合災害の記録や教訓を継承し、世界と共有するとともに、復興の加速化に寄与する施設。災害の始まりから事故への対応、復興への挑戦までを、7面スクリーンの大型映像シアター、収集資料や証言展示等で紹介。	延床面積 5,256 m ² 展示面積 1,519 m ²	約1万人 9月24日オープンから 10月12日まで(19日間)	ターゲット:県民・地元・県外避難者、国・自治体関係者、民間事業者、研究者、世界からの視察団、教育旅行 来館者層:ターゲット通り	【プログラム】中高生の学校団体に対応したプログラムで集客につなげる(語り部・展示見学・フィールドワークを組み合わせた体験活動を実施) 【プログラム】デジタルアーカイブシステムの導入(来館者の興味関心に応じて資料や映像を閲覧可能。展示スペースで展示できない資料を見せられる。また、新しい情報をスタッフの対応で追加できる。) 【広報・集客】県内外の学校への営業活動を実施し、オープンから多くの中高生が来館することに成功。
リプルンふくしま (福島県双葉郡富岡町)	「動かす」「さわる」「遊ぶ」をコンセプトとした特定廃棄物埋立処分事業の情報発信施設。事業の概要から除去土壌や廃棄物の発生経緯と流れ、事業の流れと安全対策、安全確保の仕組み、地域の未来について映像や模型で紹介。	延床面積 557 m ² 展示面積 276 m ²	36,772名 (累計、令和2年 7月21日現在)	来館者層:幅広い年代、学校・企業等の団体が来館。学校と企業では企業が多い。海外の廃炉関係の学会ツアーも来館。	【広報・集客】「特定廃棄物埋立情報館」では固い印象があるところを、愛称を使うことで親しみやすくしている 【地域】共通するテーマの施設と連携して広報力を強化(中間貯蔵工事情報センターの他、環境再生プラザやコミュタン福島と連携。「ふくしまサイエンスぷらっとフォーラム」への参加。)
福島県環境創造 センター交流棟 (福島県田村郡三春町)	ふくしまの未来を創造する対話と共創の場として、復興に向かう福島歩み、福島環境のいま、放射線や除染の知識をガイダンス映像や参加型映像、体験展示やグラフィックで紹介。環境創造シアターとして全球型映像シアターを設置。	延床面積 4,632 m ² 展示面積 1,081.5 m ²	97,523人 (令和元年度)	ターゲット:小学校中学年から高学年(4～5年生) 来館者層:一般来館者5割、団体3～4割。県内小学校の5割以上が毎年来館	【展示】スタッフで更新できる工夫された表示方法(積み木による数値情報の表示)や外部のシステムと連動して自動更新できるデジタルシステム(モニタリング情報は自動で情報更新している) 【運営】スタッフは全員アテンド対応可能。誰でも同じ回答ができるように月一回の研修で体験を共有 【運営】予約受付システム(データベース)による事務効率化 【広報・集客】旅行会社に継続的なPRを実施。スタッフの対応が好評で旅行会社がツアー団体に来館を提案。入館無料で旅程の程よい地点になることがあり、多くのツアー客の集客に成功している。